

之說、依文生義、不可據信、按蠟皆見夢梁錄、李時珍以爲桑扈一名、按桑扈卽以加流賀、

〔類聚名義抄〕^九 鶻皆鳥 アトリ 鶻子鳥 同、一云胡雀、鶻アトリ、鶻アトリ 〔同九〕鶻雀 アトリ

〔本朝食鑑〕^六 鶻子鳥 訓、阿利

集解、鶻子大如雀、頭頸灰青色、有黑斑、頰皆黃赤、背蒼黑帶赤、有黑斑、臆腹赤色帶黑、腹下黃白、翅尾黑、脚黃赤色、好成群、而不知幾千百、蔽地掠天而飛、故日本紀曰、天武帝七年、臘子鳥蔽天、後世亦有之、以爲天變焉、今捕之者爲媒誘地、以網打而捕之、一舉數百、其味苦不佳、

〔本朝食鑑〕^六 鶻子鳥 華和異同

源順和名曰、胡雀、故或謂陳藏器曰、突厥雀生塞北、狀如雀而身赤、此鳥亦胸腹赤色、自古群飛蔽天、則必有災、故歷史記之、恐是突厥雀歟、突厥亦胡國、而胡雀之名亦相當矣、必大按、突厥雀出于唐書、高宗時、突厥犯塞、有鳴鶻群飛入塞、故名、爾雅鶻鳩冠雉也、冠者奪冠之義也、郭璞曰、鶻鳩大如鶻形似雌雉、然則鶻類也、據陳氏說、則似鶻子、胡雀之類、據郭氏說、則甚殊矣、今併考之、爾雅莊周張華郭璞所言俱鶻鳩、李時珍亦從之、此非胡雀者明矣、陳言似雀者非乎、

〔本草一家言〕^四 花鶻 和名鶻子鳥、其形大如雀、其色多赤黃、黑白斑點、此鳥數十爲群來、或棲樹或壓

城壁、死、故俗語人以進退躁卒失度、謂如火鶻投火是也、

通州志云、花鶻秋日來自海東外、天者名麻鶻、

〔喚子鳥〕^下 粒餌小鳥の分 何にても水を入れる

あつ鳥 ミガヒ 右同斷○ミガヒ、あは、ひ、ミ、米、すり、ミ、四分、ミ、よし、

大ききすゝめに大ぶり、毛色黑白かば色まじはり、見事成鳥なり、年を重ねていよく見事なる鳥なり、然れども囀りなく、多き鳥にてかひ鳥の下品なり、

〔日本書紀〕^{二十九} 天武七年十二月己卯、臘子鳥蔽天、自西南飛、東北、九年十一月辛丑、臘子鳥蔽天、自東